



文化庁委託事業

平成25年度

劇場・音楽堂等 スタッフ交流研修事業 報告書

報告書



目次

02 はじめに 専門的人材育成のさらなるレベルアップを目指して

05 劇場・音楽堂等 スタッフ交流研修事業

事例

公立文化施設の運営の「現場」を体験し
座学では習得できない
さまざまなノウハウを学ぶ

[派遣元] 相愛大学音楽学部音楽マネジメント学科

[受入先] 貝塚市民文化会館（コスモシアター）

12 大学との連携等による
インターンシップ事例研究

事例

年間を通して実施される主催事業の1枠を担当し
学生自らが企画立案、当日運営までトータルに経験

(公財)横浜市芸術文化振興財団 横浜みなとみらいホールと昭和音楽大学音楽学部
音楽芸術運営学科との連携「昭和音楽大学アートマネジメント・リレーションシップ企画」

16 昭和音楽大学音楽芸術運営学科における
インターンシップの取り組み

19 事業の概要

はじめに

専門的人材育成のさらなるレベルアップを目指して

平成24年6月に成立、公布・施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(以下「劇場法」という。)」は、文化芸術振興基本法の基本理念にのっとり、劇場・音楽堂等が実演芸術の水準の向上、地域コミュニティの創造と再生、国際文化交流などを通して地域を発展させ、その拠点となる劇場・音楽堂等をさらに一歩前進させることをその主な目的にしています。

また、この法の根拠基準となる平成23年2月に閣議決定された第3次基本方針には、文化芸術への公的資金を社会的必要性に基づく戦略的投資と捉え直すという基本理念が示され、成熟社会における成長の源泉として、「ハード」の整備から「ソフト」と「ヒューマン」の支援に重点を移すとされています。加えて、文化芸術は社会的便益(外部性)を有する公共財であり、社会包摂の機能をもつとされ、この基本的視点は劇場法の前文にも明らかです。

この第3次基本方針から我が国の文化政策における人材育成に関する位置付けは明確になりました。一方、社会情勢や経済状況の悪化、自治体の財政難、度重なる制度改革、地域住民の多様な価値観の変化など、その専門性のスキルやノウハウはより一層の高度化が求められています。

こうした実情を踏まえ、全国公立文化施設協会では、劇場・音楽堂等の要望や受

講者のニーズに応えるよう、常にプログラムの改定と研修改善を続けて参りました。

平成23年4月からは現職者を対象に、創造環境の違う劇場において相互交流を促し、専門性やノウハウを実践的に習得する機会を提供するなかで、職員のアートマネジメントスキルや資質の向上に努めることができるよう、スタッフ交流による研修制度をスタートさせました。

劇場法第16条に基づく文部科学大臣指針によれば「専門的人材の養成・確保及び職員の資質の向上に関する事項」では、設置者又は運営者は、専門的人材の養成を行うよう努めるものとし、その設置する劇場、音楽堂等の実態等を勘案しつつ、他の劇場、音楽堂等、実演芸術団体等及び大学等と連携・協力し、実践的な知識及び技術を習得するための研修その他の養成のための機会を設けるとともに、人材交流を行うよう努めるものとする、としています。

その際、劇場、音楽堂等と大学等との連携・協用に当たっては、実践的な知識及び技術の効果的な習得を重視することや劇場、音楽堂等及び実演芸術団体等の専門的人材が劇場、音楽堂等の施設等も活用しつつ、大学等における授業を行うなどの取組を行うことが示されています。また、学生が劇場、音楽堂等において専門的な業務を体験する効果的なインターンシップの実施を検討するとともに、将来的には連携大学院制度等の活用等も検討することも明文化されました。

文化庁は「劇場・音楽堂等活性化事業」のなかで、幅広い層を対象としたアートマネジメント人材の育成に力を入れています。なかでも、「大学を活用した文化芸術推進事業」では、芸術系大学と連携したアートマネジメント教育を推進するため、芸術大学等による公演・展示等の企画・開催を含めた実践的なカリキュラムの開発・実施を支援するとともに、開発されたカリキュラムを広く他大学に周知・普及させることを推進しています。今後は、本格的なインターン制度の導入へ、さらなる育成のレベルアップが求められていることは明らかです。

本報告書では、平成23年度にアートマネジメントの学科が新設され、今回の事業がインターンシップ第一号となる相愛大学と、平成12年度から学外実習（インターンシップ）をカリキュラムに取り入れ、その経験を蓄積している昭和音楽大学の事例を紹介します。インターンシップの導入時期や、受入先の劇場・音楽堂等の規模、地域性が異なる事例を取り上げています。

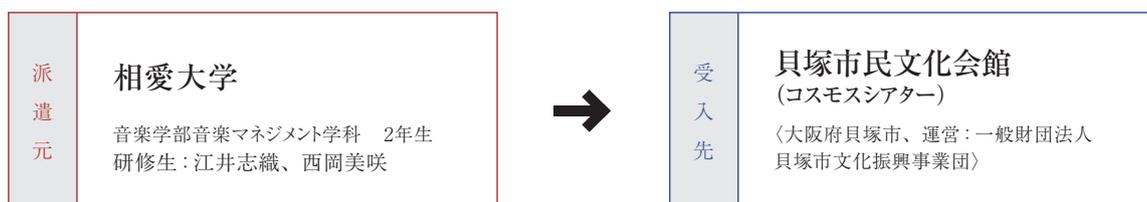
当研修事業や本報告書が、これからインターンシップに取り組もうとする大学や、劇場・音楽堂等の方々が検討される際の一助となれば幸いです。

2014年3月 公益社団法人 全国公立文化施設協会

劇場・音楽堂等 スタッフ交流研修事業

公立文化施設の運営の「現場」を体験し 座学では習得できない さまざまなノウハウを学ぶ

大阪・相愛大学音楽学部音楽マネジメント学科は、音楽の持つ社会的意義を認識し、芸術文化の振興を支える人材や、音楽産業の発展を担うプロの養成を目指し、平成23年度に新設された。「音楽」「IT」「経営学」を融合させた専門知識を学ぶなか、学内外でのイベント運営を積極的に行っているが、今回、2年生を対象に、公共文化施設の運営を体験する研修を貝塚市民文化会館で初めて実施した。



実施概要

【実施期間】

平成25年10月17日(木)～平成26年3月9日(日)

合計11日間

【実施のねらい】

学生が劇場・音楽堂等の業務に関わりながら、運営について学び、座学では習得できない実際的な状況を学ぶことを目的とする。

そのうえで業務内容や作業工程を体系化させ、学内で他の学生へ報告も行い、理解を深めていく。また、その体系化した資料は受入先にも提供し、事後の運営・業務の一助とする。

研修生の学年は2年生であるが、この研修を経て3年時で履修するインターンシップで、より知識と意識を高めて実習を行うことは、一層の成果につながっていくことであろう。さらに、アートマネジメント研修会などに参加する際にも、有効な事前体験となる。

【実施内容】

貸館事業、自主事業、巡回公演事業、事務所業務の現場を体験。

貸館事業においては、高校演劇地区大会、地域鑑賞団体主催による文学座公演の立ち会い、表方業務、鍵の管理等を行った。自主事業においては、市民ミュージカル講習、ホールボランティア講習会、ティータイムコンサート、演歌コンサート、寄席、富良野塾演劇公演において、ケータリング準備、接待、観客誘導、仕込み見学、チラシ配布、チラシ挟み込み、撤収の見学をした。巡回公演事業は和歌山県橋本市での出前講釈会で、会場準備、受付、チケットもぎり、影アナ、撤収作業を担当。また、事務所業務では資料の整理を行った。研修生の江井志織は9日間、西岡美咲は11日間の研修であった。

橋本市産業文化会館での受付業務



日程	曜日	研修内容	コスモシアターでの公演、事業
10月17日	木	○ 打ち合わせ ○ 市民ミュージカル練習 立ち会い	市民ミュージカル練習
11月7日	木	○ 高校生演劇地区大会 立ち会い	高校生演劇 地区大会
12月2日	月	○ アーカイブ資料(企画書など)整理 ○ 市民ミュージカル練習 手伝い	市民ミュージカル練習
12月13日	金	○ 主催者に貸し出すものなどを準備 ○ 鍵の管理 ○ チラシ挟み込み ○ 仕込み見学 ○ 表方の手伝い(チラシ配布) ○ ファイルの背表紙作成 ○ 市民ミュージカル練習 手伝い	文学座演劇公演(貸館事業) 市民ミュージカル練習
12月22日	日	○ 会場の微調整、準備 ○ チラシ挟み込み ○ 受付、チケットもぎり ○ 公演中の影アナ、公演中の手伝い ○ 会場の後片付け	講釈会 出前「釈場」(巡回公演事業): 和歌山県橋本市産業文化会館
12月26日	木	○ 市民ミュージカル練習 手伝い	市民ミュージカル練習
1月17日	金	○ 集合場所の準備 ○ チケットの納品について ○ 幕について ○ ホールボランティア講習会受講 (平台・箱馬、所作台、毛氈のひきかた、舻い結び・鉄管結び)	ホールボランティア講習会
1月18日	土	○ 公演準備 (お茶、お菓子を出すため、ティーカップやお菓子の準備、 テーブルセッティングなど) ○ 出演者控室準備 ○ ケータリング準備 ○ 公演手伝い	ティータイムコンサート(自主事業)
1月31日	金	○ 翌日の貸館本番のための準備(机、テント、椅子、パネルの設置) ○ 電源について ○ ホールボランティア講習会の受講、音響の基礎について (マイク、スピーカー、8の字巻、マイクスタンド立て方)	貸館利用のための準備 ホールボランティア講習会
3月1日	土	○ 舞台仕込み見学 (音響機材の組立、照明機材の配線確認・角度調整、各マイクの音量調整)	演歌祭り(自主事業)
3月8日	土	○ ケータリング準備 ○ 表方準備 ○ 表方手伝い(誘導) ○ 公演見学 ○ 演劇仕込み見学	第48回 秋桜寄席(自主事業) 演劇仕込み
3月9日	日	○ 仕込み見学 ○ 表方準備 ○ 表方手伝い(チラシ配布) ○ 公演見学 ○ バラシ見学	富良野GROUP「マロース」(自主事業)



チラシ挟み込み



ホールボランティア講習会での様子(音響の基礎、マイクの扱い等)

本事業の成果と課題 ～インターンシップに期待すること

相愛大学 音楽学部音楽マネジメント学科
准教授 砂田和道

大学では学べない緊張感あふれる現場にふれる

大学側が劇場・音楽堂等でのインターンシップに期待するのは、プロの厳しさや芸術家の実態を知ること、地域の特性を踏まえたうえで、利用者である市民、設置主体である行政と関わる施設の立場を知るといった、大学ではふれることのできない緊張感あふれる“現実”を学ぶことであると考えます。以下、このことについて詳しく述べたいと思います。

まず、「プロの厳しさ」についてですが、劇場・音楽堂等の運営の場では、芸術芸能界や裏方などに、特有の職人気質といいますか、徒弟制度というものが存在します。そうした人間関係を知り、空気を読むことや、アーティストとの良好な関係性を保つためのコミュニケーションスキルといったものは、まず経験ありきというか、実際に体験してみないとわからないものです。

また、厳しさということでいうと、職員と師弟関係のように密接に関わり、時に厳しい叱咤を受けながら学んでいく姿勢が大切になります。私自身、NPO法人で教育プログラムのプランニングから実施まで、数多くの経験がありますので、人数の限られた中小規模館などで複数の業務を同時進行していく職員の忙しさについては十分理解していますが、できれば企画者の思考プロセス（様々なことに配慮する）といった内面を知り得る（垣間見る）ことや、事業の企画や検討、実施までの流れを知る機会を得ることができるよう、コミュニケーション（会話／議論）が活発になるマンツーマン、もしくは少人数の体制で指導していただける環境が必要だと感じます。それが創造性ある企画立案につながる意欲を引き出す動機付けと思考を深めることとなります。

先に述べたように、アートは徒弟制度の世界です。その世界を知らない方は、継承法を知らないことが多いように思います。とくにアートマネジメントや文化政策を学ぶことは大切ですが、その知識のみだと、アートやアーティストを理解し、創造的思考をもちづらいのではないかと感じています。私は「創造性あるホール」を増やしたいと思っています。

そして、公立文化施設の運営にとって、市民との関わりはとくに重要な要素です。地域の芸術団体、文化ボランティア、貸館利用者、市民ミュージカルやオペラの参加者など、どのように市民と接し、向き合っているのか、そうした様子を肌で感じる事が不可欠です。また、指定管理者という立場で、行政と劇場・音楽堂等にはどのような関係性があるのか。どんな制約があって、どう業務が成り立っているのかも学んでほしい。これは学生と接して実感するのですが、ほとんどの学生が、企画の立案、実施をすることばかりに目が向きがちです。しかし劇場・音楽堂等の仕事では、企画、とくに音楽プロデュースなどは年間事業において少なく、管理や市民への対応などが業務の大きな部分を占めていますし、広報展開などについても学ばなくてはなりません。こうした実習を、2年、3年生時に連続して実施できればさらに効果的であるとも考えました。

専門性と意識の高い職員の方々から吸収できること

今回、公文協を通じて、貝塚市民文化会館に受け入れていただきましたが、研修先として選んだ理由は、独自に企画制作をしており、さらに各地の劇場・音楽堂等にセールスをする事業展開をしているからです。そのような発想力のある施設は財源豊かな施設の事業とは違う創意工夫があります。創造性とは発想力が無ければ発揮されません。また、公立文化施設には長期的な安定性を期待できない状況があります。毎年毎年、事業展開は不安定です。そのようななか、たくましく事業運営を行っている貝塚の姿勢を、学生に知ってもらい、その薫陶を受けさせたいと思いました。

どの施設も、限られた予算の中、知恵を絞って事業

を実施していると思いますが、専門性と意識の高い貝塚の職員の方々から、多くのことを学べると思いました。

学生は実際の劇場・音楽堂等という現場に行くことで、日頃の座学からの知識を可視化し、あるいは座学内容の理解度を高めたと思います。また、2年生を対象として研修を実施できたことは、3年生以降での学習、情報収集、社会経験を優位なものにすると確信します。その意味で大きな教育的価値があったと思います。実際、2月に実施された全国公文協のアートマネジメント研修会に、意識を高くもって参加することになり、成果を実感しています。

研修を振り返ると、もう少し事務所での作業があれば、劇場・音楽堂等の運営における日常業務にふれることができ、よりインターンシップの効果があつたのではと感じました。その際、パソコンを使用することになりますが、個人情報扱う関係上、さまざまな情報が蓄積されている事務所のパソコンを、学生が使用することは難しいことです。そこで事務作業のために、大学や学生側がノートパソコンを持ち込むなりして対処する必要があると思われました。

今回は、少ないスタッフで運営している中小規模館での研修のあり方を学ぶいい機会であったと思います。

連携によるさらなる相乗効果を期待して

本事業は、劇場法をもとに、今後のアートマネジメント人材育成における課題を見据え、非常に意義のある事業になることが予期できます。



自主事業での受付業務

そのためには施設側の教育体制を整えることが不可欠です。あるいは教育機関としての役割を果たす劇場・音楽堂等を国内数カ所に設定することも考えられます。そのための財源についてもご一考いただければと思います。

といいますのも、学生の経済状況は国公立、私立とも厳しい状況下であり、とくに高額授業料を納める私立大学学生も経済的な弱者となっています。よって、交通費、宿泊費の支給といった支援を希望します。

教育機関としての大学が、学生を研修で派遣するには、相応の教育効果を求めることとなります。したがって、受入側は業務の体系化を確立しておく必要があるでしょう。教育システムが整っていない場合は、教育機関として蓄積された大学のノウハウを、劇場・音楽堂等におけるインターンシップのカリキュラムに反映させる必要があります。

いずれにしても、今後もこの事業を継続することによって、劇場・音楽堂等と大学の連携の、さらなる相乗効果を期待しています。

研修生の声

お客様やアーティストが満足する 劇場・音楽堂等の運営とは？ さまざまな舞台裏から業務が明確に

相愛大学 音楽学部 音楽マネジメント学科2年生
江井志織

毎回ジャンルの違う公演を行う中で、舞台の仕込みを体験させていただいたことは大変勉強になりました。ホール内の全体的な見栄えだけを確認するのではなく、小道具の吊りもの高さの確認や、照明の確認など、細かい作業が何度も行われていました。巡回公演事業の講釈会では、左右の屏風の角度を合わせるのももちろんのこと、マイクの位置や座布団の向きなどといった、客席からは見えない部分、細部にまで神経を行き渡らせ、お客様やアーティストが満足する舞台設営を心掛けていることを実感できました。



アーカイブ資料の整理(背表紙のタイトル作成)

自主公演時には、控え室やケータリング準備のお手伝いをさせていただきましたが、手際よく短時間ですることができず、職員のみなさんはこういった作業をひとりですることもあると伺い、効率よく準備する大切さを実感しました。

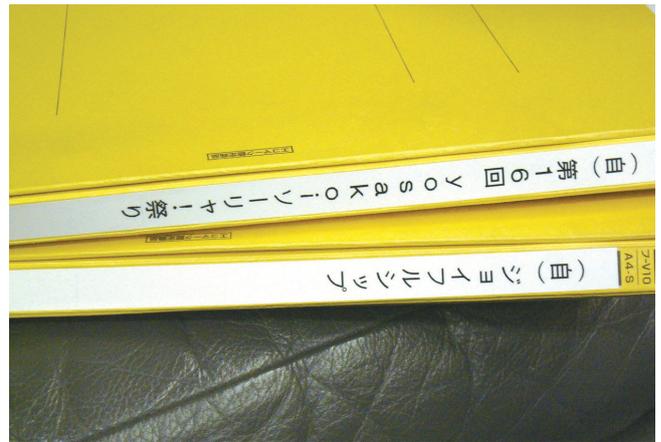
また、出演するアーティストの方々へ、おもてなしの気持ち、感謝の気持ちをもって対応することは運営の上で最低限必要なことだということを学びました。

今回、「劇場・音楽堂等の仕事とはどういう業務なのか」という曖昧だった部分が明確になりました。普段は立ち入ることのできない現場で、たくさん学ばせていただきました。演歌祭りや講釈会、市民ミュージカルなどを体験しましたが、個人的には、機会があればオペラ公演の舞台裏を拝見させていただきたいと思っています。

実は、将来自分が就きたい仕事については、まだ悩んでいるところですので、これからどのような勉強を続けていくかという目標は決まっていません。ですが、今回学ばせていただいたことは、どの業界でも通じることだと思っておりますので、それを忘れることなく、今後も学んでいきたいと思っております。



舞台に関するホールボランティア講習会



幅広く、多岐にわたる業務を実感 市民に親しまれている施設から 多くのことを学ぶ

相愛大学 音楽学部 音楽マネジメント学科2年生
西岡美咲

中学校の部活と、音楽高校でフルートを専攻し、今も演奏活動を続けながら、アートマネジメントを学んでいます。1年生のときに、地域や、学内の小さな講堂を使ったミニコンサートなど、いくつかのイベントの運営に携わった経験があり、卒業後は公立文化施設をはじめとする劇場・音楽堂等で仕事をしてみたいという希望があります。また、アートをまちづくりに生かすこと、芸術で社会貢献をするといった考え方に興味があり、今回のインターンシップを経験したことは、今後の進路を考える上で、非常に有意義なものとなりました。

強く実感したのは、職員の方の業務は幅広く、多岐にわたっているということです。時に大・中・小ホールをかけもちしながら、ひとりで複数の仕事を同時に行うこともあることに驚きました。私が経験してきたイベントの運営とは段取りからまったく違います。企画、実施するという言葉では簡単ですが、それにまつわるさまざまな事務的な業務、物品の管理やチケットやチラシの扱い方、各方面との連絡や交渉、対応など……細やかな心配り



市民ミュージカル練習の立ち会い

はもちろんのこと、タイトなスケジュールをしっかりとこなしている職員のみなさんの姿は、大変勉強になりました。

また、貝塚市民文化会館は市民に親しまれている施設だということも、この研修で肌で感じたことです。ロビーで子どもたちがダンスの練習をしていたり、学校の先生方がやってきて、職員のみなさんとコミュニケーションしている様子を拝見し、芸術と市民の距離の近さを感じました。

そのほか、舞台の仕込みでは、袖で設営や大道具などを間近に見ることができたこと、舞台技術の講座を受け、初めての経験がたくさんあったこと、「プロの仕事とは何か」、そしてその厳しさを学ぶことができてよかったと思います。

今回、市民参加型のイベントにも多く関わらせていただき、ますます、市民と芸術をつなぐ仕事につきたいと思ひ、目標にしたいと思ひました。

受け入れ館から

**何を身につけるか、目的意識を明確にし、
業務全体を把握しながら
自主的に学ぶこと**

一般財団法人貝塚市文化振興事業団 制作室 主幹
長 曾 誠

貝塚市民文化会館は、地域の方々に愛される親しみや

すい施設を目指し、自主制作による良質な芸術文化の提供と、ユニークな市民参加・参画型の事業を開発、展開しています。

市民とともに作りあげるプログラムは対象年齢も幅広く、内容も多彩です。年間の自主事業の7割は、何らかの形で市民が関わっています。たとえば、「眠れる才能を叩き起せ」と銘打ったWake Upシリーズ。市民参加型の才能発掘企画で、ワークショップから本公演まで2年にわたって作りあげる「芝居の一步」、「コスモス・オリジナル・ミュージカル」や、「舞台美術ワークショップ」などがあります。

表現系のものばかりでなく、市民参加鑑賞型の事業もあります。「懐音再生」は、レコード持参で来ていただき、ホールロビーで行うレコード観賞会。また、ホールボランティア養成講座は舞台制作にかかわる講習を10回近く行う本格的なもの。毎回10歳代後半から60歳代後



ホールボランティア講習会（音響卓の説明）

半までと幅広い年齢層の方々が参加します。

さらに私どもの会館の特徴として、自分たちでプロデュース・制作したパッケージを他の会館に提供していることがあげられます。これは志を同じくする会館と立ち上げた「公立文化施設舞台芸術研究会SASA (Stage Art Studay Association)」の企画の一環で、ネットワーク事業としてスタートしたものです。アーティスト制作協力事業という自主事業枠内で行っていますが、公共文化施設限定企画として、プロデュースから構成・演出・舞台監督・音響・照明に至るまで、当館で制作を仕切っ

ています。アーティストによっては、ツアースケジュールから移動、宿泊の手配・管理まで任されることもあります。私が所属する制作室は5名で、こうした業務を抱えているので、職員は多忙を極めていといえます。地元で大学がないことや、業務状況によりこれまではインターシップの受け入れは行っておらず、今回が初めてとなりました。

江井さん、西岡さんにまず心がけてもらったのは、事業の際の表方、裏方の動きを、俯瞰して見てもらうということでした。スタッフの一員として動きながら、他の動きにも気を配る。言われたことをただこなすだけでなく、つねにアンテナを高く張り巡らせて動くことを意識してもらいました。

企画制作は、舞台を熟知していないとできません。また、貸館受付や、利用者との打ち合わせをする上でも、仕込みの手順を知っていれば、スムーズに、わかりやすく説明することができます。ですので、ホールボランティア講習会に参加してもらったのは、有意義であったと思います。

スタッフの人数が少ないため、指導が行き渡らなかった部分もあります。また、個人情報や、各種契約書など、さまざまな情報を管理しなければならない都合上、事務所での業務が少なくなったことは否めません。こうした情報の取り扱いについても、今後の課題となるでしょう。

研修生には、何を学びたいか、目的意識をしっかりとってもらうことが最も重要だと感じました。また、大学側には、会館の事業の流れについて理解していただきながら、インターシップに入るスケジュールを決定していくことが求められると思います。



ホールボランティア講習会を受講。照明について学ぶ

DATA

派遣元

相愛大学 音楽学部 音楽マネジメント学科

相愛大学は、明治21(1888)年創立の相愛女学校を前身とする。昭和33(1958)年、相愛女子大学音楽学部設置。昭和57(1982)年相愛大学に校名変更、音楽学部が男女共学に。音楽マネジメント学科は平成23(2011)年に設置された。音楽の専門知識をベースに、ITと経営学を複合的に学び、音楽ビジネスのプロを輩出する。

【所在地】

(南港学舎) 大阪市住之江区南港中4-4-1

(本町学舎) 大阪市中央区本町4-1-23

受入先

貝塚市民文化会館(コスモシアター)

平成5(1993)年、貝塚市の市制施行50周年記念事業として開館。建物の1階に大ホール、中ホール、小ホールの3つのホールと練習室、楽屋、会議室などを備える貝塚市民文化会館があり、2階は貝塚市中央公民館、3階は青少年センターがある複合施設。「コスモシアター」は市の花、コスモスから命名。

【所在地】大阪府貝塚市畠中1-18-1

【運営】(一財)貝塚市文化振興事業団

【施設】大ホール(1224席、楽屋5室)、中ホール(483席/固定席240席、ロールバックチェア243席、楽屋3室)、小ホール(最大100席)、会議室2室、練習室2室



年間を通して実施される主催事業の1枠を担当し 学生自らが企画立案、当日運営までトータルに経験

(公財)横浜市芸術文化振興財団 横浜みなとみらいホールと昭和音楽大学音楽学部
音楽芸術運営学科との連携「昭和音楽大学アートマネジメント・リレーションシップ企画」

昭和音楽大学音楽学部音楽芸術運営学科アートマネジメントコースでは、平成12年より、14ヵ所の芸術文化組織の協力を得て、「学外実習」をスタートさせた。以降、実施手順や方法について改善を重ねながら、カリキュラムを作成。

現在では3年次での必修科目、4年次の選択科目となっている。

平成23年度に、横浜みなとみらいホールとの連携で、通年で実施する「アートマネジメント・リレーションシップ企画」がスタート。

1年間にわたって学生と担当者が打ち合わせを重ね、企画を決定し、学生自ら出演交渉や印刷物、

プレスリリースの制作、集客のための宣伝活動を行う本格的なインターンシップである。

この取り組みについて、横浜みなとみらいホール事業企画グループ長の佐々木真二氏と、

同コーディネーターで、担当の白川美帆氏にお話を伺った。

既存の事業をベースに年間を通して 受け入れ体制を整えたことが成果に

これまで横浜みなとみらいホールでは、横浜市内の大学などから、短期であれば2、3日、長くても1週間程度の研修生を受け入れていました。この場合、どうしてもチラシ挟み込みといった公演準備や、当日の受付などを体験してもらうことにとどまっていた。中学生の職業体験なども受け入れていますが、極端な話、大枠はそれと変わらないものになってしまう。そうではなくて、アートマネジメントを学ぶ学生に、もっと実践的な支援ができないかということを考えていました。

昭和音楽大学の音楽芸術運営学科(アートマネジメントコース、舞台スタッフコース)が学外研修に力を入れていることは以前から知っておりましたので、先生に相談にうかがったところ、賛同していただきまして、今回の「リレーションシップ企画」が生まれました。

平日の昼間、公演時間は短く、低料金で気軽に楽しめるコンサートは、開館2年目から行っている定番企画です。固定客がついていて、ある意味、職員の中でもマンネリ感があつたのも事実でした。こうした企画に、若者の新しい視点や発想が加われば、こちらとしても嬉しい。毎回平均1300人の集客があるので、収益にさほど神経質にならなくてもよいこと、さらに年間を通した企画なので、毎回表方、裏方業務に携わってもらい、職員の仕事や、お客様の動向を見ることが出来る。その中の1枠を研修生自ら、企画から実施まで携わってもらうことで実力がつくという、研修には最適な事業だと思っています。

また、平成25年度は行いませんでしたが、2年目には、4年生を対象に、海外招へいにも取り組んでもらいました。最初は手さぐりでしたので、メールの英文を添削するなど、担当職員が手取り足取り教えていたのですが、私としては多少“突き放す”ということも必要だと思っています。

ます。先回りや根回しをするのではなくて、自分で解決する力もつけてほしいと思います。

インターンシップは受け入れ側としてはさまざまな労力を必要とします。それゆえに短期での受け入れになりがちですが、実はそうしたイレギュラーな体制になることが、職場にとっては負担になるのではないのでしょうか。既存の、すでに評価も定まっている事業をベースに、年間を通して計画的に受け入れる体制をつくれれば、受け入れ側にも余裕が生まれますし、研修生にとってはメリットが大きく、成果につながっていくのではないかと思います。
(事業企画グループ長・佐々木真二氏)

担当者として特に気をつかったのは、出演者をはじめとする公演の関係者と研修生のやりとりに関してです。どうすればわかりやすく、間違いなく相手に伝えられるか。交渉には細かな配慮が大切だということを、2人の研修生はわかってくれたのではないかと思います。

広報については公演の告知と、学生企画であることを強調した、2種類のプレスリリースを作成しましたが、それがラジオ出演につながったりと成果がありました。また、チケット売り上げの動向を伝えて危機感を持ってもらい、解決策を考えてもらったり、場数を踏んでもらうことも含め、年間を通した研修だからこそ、最初と最後では研修生のスキルも格段にアップし、その成長をより感じました。

研修生に業務をひとつひとつ教えていくのは大変ですが、共に悩みながら取り組んでいくことで、私自身が勉強になっていることも多くあり、受け入れ側にも意義があると思います。

(事業企画グループコーディネーター・白川美帆氏)



ステージ裏での進行の補佐を行う

平成25年度の実施例

[受け入れ期間]

平成25年4月1日(月)～平成26年3月6日(木)

[実施内容]

「みなとみらいクラシック・クルーズ」Vol.49(2013年4月公演)～Vol.54(2014年3月公演)およびその他ホール主催公演の運営補助、受付業務(プログラム準備、当日券販売等)、ステージ運営補助(セッティング、楽屋準備等)、みなとみらいクラシック・クルーズVol.54の企画・制作・運営を行った。

「～名曲を楽しむ午後のひととき～ みなとみらいクラシック・クルーズ」概要

①ランチタイム・クルーズ(開場11:30、開演12:10)

②ティータイム・クルーズ(開場13:50、開演14:30)

会場：横浜みなとみらいホール 大ホール

平日のお昼と午後の時間に気軽に音楽を楽しんでいただくことを目的としたクラシックコンサートで、1999年からスタート。休憩なし、MCとアンコールを含めて約40分、2回の公演は別のプログラムとなる。低料金(1回券800円、通し券1400円)と短い時間で楽しめることから、中高年齢層のお客様を中心に人気のある企画となっている。

[みなとみらいクラシック・クルーズVol.54 概要]

〈出演〉

Trombone Quartet TINTS(女性トロンボーンカルテット)、長谷川美保(パイプオルガン)

〈日程〉

2014年3月6日(木)

〈プログラム〉

①ランチタイム・クルーズ「名曲で迎える世界の国々」

歌劇『カルメン』より「ハバナラ」「闘牛士の歌」ほか

②ティータイム・クルーズ「名曲で観る映画・ミュージカル」

映画『ティファニーで朝食を』より「ムーンリバー」ほか

[制作日程]

2013年

- 5月～6月—企画書提出、検討、出演交渉
- 7月——公演企画決定(出演者、曲目決定)
- 8月～9月—チラシ作成
(文字原稿作成、入稿、部数の決定等)
WEB情報の作成、公演決定書作成、
友の会へのDM発送(チラシ)
- 10月——チケット発売開始、広報活動開始

2014年

- 1月——契約書作成
- 2月——進行表・公演打ち合わせ表作成、
追加プレスリリース作成、ラジオ出演
- 3月——本番当日の運営

[業務内容]

- 企画立案
- 出演者(音楽事務所等)との調整
 - ・チラシ作成のための写真、プロフィールを依頼、チラシの確認
 - ・チラシ挟み込みやチケット販売ご協力をお願い
 - ・ピアノ調律発注のための確認(ピアノ機種希望、ピッチ、調律アップ時間、立ち会い時間等)
 - ・プログラムの確認
 - ・公演当日に向けての確認→進行表の作成(曲タイム、入り時間、駐車場の有無、スタッフ人数、物販、サイン会の有無、アンコール等)
- 公演に必要な事務処理
 - ・公演決定書作成、契約書作成、支払いが発生するものに対する決済書類の説明(チラシ印刷費、曲目解説委託費、ピアノ調律費など)
- チラシの作成
 - ・業者とのやりとり…チラシに載せる文字情報原稿を作成・色を決める、入稿、校正



- 曲目解説・ピアノ調律発注
- 広報・販促業務
 - ・チラシの配布手配(挟み込みができそうな公演のピックアップ)
- チケットセンターへの発注
(ランチボックス券、当日チケット等)
- 当日配布の印刷物の作成
(プログラム、アンケート、みなクルプレス)
- 公演当日の運営
 - ・受付業務…当日券販売、出演者預かり券対応、紛失券対応、クーポンラリーお問い合わせ・引き換え対応、終演後の面会対応、周辺施設や他事業等の様々な問い合わせ対応
 - ・進行(ステージ裏)…出演者受け入れ、リハーサル時間の時間管理、開場・開演・終演の時間管理

〈その他の業務について〉

- 3月公演を実施するにあたり、公演の様子や公演日当時の流れを知るため、他の公演日に受付業務とステージ裏での進行を担当したほか、以下の業務を行った。
- 公演日前日の挟み込み作業
 - 楽屋準備・ケータリング準備
 - ・楽屋掲示物を貼る、各楽屋にポット、飲み物、お菓子等を用意、アーティストラウンジにケータリング準備
 - 受付準備、受付業務
 - ステージ裏で進行の補佐
 - 終演後片付け

実習生の声

昭和音楽大学音楽芸術運営学科

アートマネジメントコース3年 飯島玲名／高瀬遥

- ・みなとみらいホールで長く実施している公演の企画をすすめるうえで、施設の特性や客層を把握することの重要性を感じました。
- ・本番を迎えるにあたって、出演者への交渉、プログラムの決定、当日の運営に関する事など、出演者と連絡を取り合う場面が多くありました。実習を始めた当初は自分の言いたいことをうまく伝えることができま



3月公演 本番のステージ(大ホール)



当日券販売など受付業務の様子

せんでしたが、こちらの意向をわかりやすく伝える工夫をすることや、疑問点があればそのままにせずきちんと質問をすること、解決することの重要性を学ぶことができました。

- 本番は演奏、照明等の舞台演出を含め、自分が想像していたものをはるかに上回る舞台となりました。このことから、当たり前のことですが、舞台はさまざまな役割をもつ多くの人がつくりあげるものだということを改めて実感しました。
- 自分たちが考えた企画を、大きな舞台で多くのお客様に観ていただく機会はなかなかいただけるものではありません。今回の実習で学んだことを無駄にせず、今後存分に生かしていきたいと思います。
- 公演がどのように制作されているのか、プロセスを知ることができたのは有意義でした。コンサートを企画するには、演奏家や曲について多くの知識が必要であり、常にアンテナを張り新しい情報を入手していくことが重要だと思いました。これはプレスリリースを作成したことで実感したことです。わかりやすく、説得力のある文章をめざして職員の方から多くのアドバイスを受けながら作成したことはよい経験となりました。
- もともと子ども向けコンサートに興味があったので、5月の「こどもの日コンサート」で場内の案内等を担当しました。小さな子どもたちがオーケストラの演奏を楽しんでいたのが印象に残っています。
- 演奏者と観客をつなぐ役割を果たせたことに嬉しさを感じます。横浜みなとみらいホールのみなさまには本当に感謝しています。ありがとうございました。

DATA

横浜みなとみらいホール

平成10(1998)年5月に開館。横浜市西区のクイーンズスクエア横浜内にあり、「海のみえるコンサートホール」として親しまれている。館長は作曲家の池辺晋一郎氏。大ホールはシューボックス型をベースに舞台が見やすいアリーナ型の客席配置を取り入れた囲み型シューボックス形式。小ホールは室内楽やピアノ、声楽のリサイタルに適した音響が特徴。

【所在地】 横浜市西区みなとみらい2-3-6

【運営】 (公財)横浜市芸術文化振興財団

【施設】 地上6階、地下1階 大ホール(2020席)、小ホール(440席)、音楽練習室、リハーサル室ほか



昭和音楽大学 音楽芸術運営学科における インターンシップの取り組み

昭和音楽大学音楽芸術運営学科アートマネジメントコースは、平成6年に日本で初めての音楽芸術運営のスペシャリストを育成するコースとして誕生し、平成25年度で20年を迎えた。また、同学科の舞台スタッフコースは、平成12年度に短期大学部に設置され、平成17年度に大学学部へ移行した。

インターンシップ授業の教育目的は、「学外の組織を中心とした実演団体、文化施設、芸術文化支援団体、芸術文化関連催事等における制作・運営に参加し、プロフェッショナルな現場を体験すること」とシラバスに示されている。さらに、インターンシップの事前・事後の学習を通して、社会人としてのマナー習得、報告書作成における文章表現能力、報告会でのプレゼンテーション能力の向上も目指している。

インターンシップ先希望調査とマッチング

学生は1、2年次に学内のさまざまなコンサートや催事にに関わり、学外での学びの基礎づくりを行う。2年次から3年次にかけて担当教員が面談を実施し、本人の希望や適性、将来のキャリア形成を勘案し、実習先とのマッチングを進める。具体的には、過去の派遣実績のリストから希望先を考えるが、それ以外にも、学生の出身地の文化施設や音楽祭等、これまでの実績がない組織に新たにアプローチすることもある。

スケジュールとしては、これまでの経験から、近年は派遣年度の前年度(2年次)の1月にガイダンス、2月頃に希望調査を開始し、受け入れ先とのやり取りをスムーズにしている(表参照)。学生は2年生の終わりからインターンシップ先を考え始めることになり、早い段階から自身のキャリアについて考える機会となっている。この希望調査では、学生が単に興味のある音楽分野のインターンシップ先を選ぶのではなく、どのようなスキルを習得し、その経験をどう生かしていきたいのかがポイントとなる。

事前準備と事後の報告会

授業では、事前オリエンテーション、実習中のアドバイス、終了後の報告などの事前事後指導が行われる。参加学生はまず、自己分析を行い、目的意識を明確にするために、

自己紹介シートの作成、派遣先の沿革、組織や事業などの概要調査を行う。次に専門講師によるビジネスマナー講座およびプレゼンテーション講座を実施している。

実習期間中は、教員による現場視察を可能な限り実施し、受け入れ担当者とともに学生の様子を把握する。学生は日々の業務を記し、受け入れ担当者によるコメント付きの記録ノートと、実習報告レポートを担当教員に提出する。

受け入れ機関側に対しても、アンケート調査を行って、授業運営の改善などに生かしている。そして年度末には受け入れ担当者等外部の方々も参加した「実習報告会」を実施。口頭による発表と並行して、全学生のインターンシップ報告を冊子にまとめた「実習報告書」を発行、その成果を共有している。



「アートマネジメントを学ぶ学生にとって、インターンシップは不可欠な科目であり、大学内での学びを補完する役割を果たしています。舞台芸術の現場において実践力、即戦力が求められる中、芸術大学における充実したインターンシップのカリキュラムは、人材育成の根幹となる重要な位置づけにあります。今後も、関係諸機関との連携を密に、より充実したインターンシップの実施を目指していきたいと思えます」(音楽芸術運営学科・武濤京子教授)



実習報告会の様子

【インターンシップの概要】

1.科目・対象

- ①「芸術運営実習Ⅱ」(必修)
アートマネジメントコース3年生
- ②「インターンシップ基礎」(選択)
舞台スタッフコース3年生
- ③「インターンシップ」(選択) 両コース4年生

2.実施期間と時期

- ①は2週間程度(1日6時間稼働として12日程度、合計72～80時間)を目安とする(受け入れ機関との調整により、研修期間が2回以上に分かれる場合あり)。
- ②、③は受け入れ機関との調整に基づき設定する。
時期は授業スケジュールの関係上、6月から12月を基本とする。

3.人数

受け入れ機関との話し合いにより決定。催事等での数名一組という形から、1名のみ、あるいは1名ずつ数回に分けてなど。

4.誓約書、自己紹介ノート

企業内情報の守秘、研修中の行動などについて、受け入れ側と参加学生との間で誓約書を交わす。また、学生の自己紹介、実習への期待等を記入した自己紹介ノートを受け入れ機関へ提出する。

5.受け入れ機関との連絡

実習担当教員を定め、受け入れ側および派遣学生との綿密な連絡にあたらせるとともに、学生の行動について責任を取らせる。

参考文献：「《学外学習》の意義とその展開―「芸術運営実習Ⅱ」と「インターンシップ」の枠組み― 武濤京子、赤木舞（「音楽芸術運営研究NO.6・NO.7合併号」昭和音楽大学/アートマネジメント研究所発行）「平成25年度 実習報告書」

芸術運営実習・インターンシップ スケジュールの流れ (平成25年度の例)

	大学/派遣側	芸術関連団体/受入側
2013年4月	受入先との事前調整	受入仮受諾
	受入先との連絡・調整 ・候補の選定 ・訪問面接・郵送などによる受入依頼 ・学長名による依頼状 ・学科主任名による概要書	
4月～5月	学生への実習内容等の提示と調整	受入内容の調整
	学生への説明、割り振り 受入先へ依頼 受入承諾書 誓約書 不測事態体制への確認	受入正式受諾
5月～12月	事前研修	実習生受入
	実習生派遣	実習プログラムおよび学生の評価 (アンケート回答)
	・事前打ち合わせ、あいさつ ・実習ノート作成 ・教員等訪問、視察、巡回	
	事後研修・評価・報告 ・実習レポートの作成、(学生)報告会 ・教員訪問による意見交換 ・アンケート集計	
2014年1月	成績評価 実習報告会	

平成25年度の実施例

受入先：(公財)川崎市文化財団グループ
ミュージア川崎シンフォニーホール

【実習期間】平成25年6月4日～8月31日(19日間)

【内容】ミュージア川崎は、川崎駅西口とペDESTリアンデッキでつながる地上27階のオフィスビルと、音楽のまち・かわさき」のシンボリック的存在であるミュージア川崎シンフォニーホールからなる施設。

2013年から新たに、「ミュージアの日」と銘打ち、川崎市の市制記念日であり、シンフォニーホールの開館記念日でもある7月1日に、ミュージアビル全体で「お祭り」が開催されることになった。川崎駅周辺の賑わいを創出し、存在感を一層高めることを目的としている。この日は川崎市内の教育機関(保育園、幼稚園、小中学校、高校)と行政機関(市役所、区役所等)は原則休みとなるため、子どもから大人まで一緒に楽しめる、ミュージア川崎のビルを丸ごと使ったイベントが企画された。実習は、このミュージアの日を中心に日程が組まれて行われた。

【業務内容】

1日目―顔合わせ、館内の見学等

2～4日目―事務所内作業(パソコン入力、チラシ印刷、挟み込み、封入作業)、公演見学(スタッフ打ち合わせ、会場見学)、公演補助(主催者受付)

5～7日目―事務所内作業(抽選結果のお知らせ作成、パソコン入力、チラシ制作、ブログ記事作成)、Jr.プロデューサー見学、公演補助

8～9日目―事務所内作業(郵便物書類作成、はがき差し込み印刷)、テレビ局打ち合わせ見学、公演補助(主催者受付)、公演見学

10～12日目―事務所内作業(アンケート集計、チラシ折込)、Jr.プロデューサー見学、「ミュージアの日」事前準備(打ち合わせ、会場設営等)、「ミュージアの日」イベント当日(総合受付)

13～15日目―事務所内作業(アンケート集計、チラシ制作)、NEC玉川川ネット

サンスシティ公演補助
(チケット預かり、公演見学、チラシ制作)

16～17日目―事務所内作業(本チラシ校正、パソコン入力、



「ミュージアの日」総合案内での業務

チラシ制作)、
公演補助(チケット関係)
18日目 事務所内作業(チラシ制作)
最終日 まとめ(実習の反省等)

【実習生の声】

- ・実習を通し、施設と地域住民、地域経済とのつながりがいかに大切であるか、その重要性を実感した。
- ・実習では、チラシ作成を中心に公演に関するさまざまな業務に携わることができた。事務所内での仕事が大半であったが、日常業務の流れを知ることができたり、3社による共同事業体の組織の中の様子を目で見ることができ、貴重な体験となった。
- ・チラシ制作では、文章の組み立て方について、何度も直しが入ることなどを経験して、お客様の目線に立ち、簡単にわかりやすく文章をつくることの難しさを痛感した。
- ・地域やミュージアム全体で行われたイベントでは、総合案内の一員として業務に関わらせていただき、自分のおかれている状況を的確に判断する力が欠けていることを実感した。スタッフの人数の多い大きなイベントで、自分が市民を盛り上げる側になったことは感動的であり、勉強になることがたくさんあった。

受入先：(公財)相模原市民文化財団

【実習期間】平成25年6月13日～8月17日(17日間)

【内容】(公財)相模原市民文化財団は、相模女子大学グリーンホール*(相模原市文化会館)、杜のホールはしもと、相模原市立城山文化ホール、相模原南市民ホール、おださがプラザの5施設の指定管理者として、それぞれの施設の特色を生かした事業を展開している。実習中は以下の事業が行われた。

〈実習中に行われた事業〉

6月22日—チェンバーオーケストラ相模原 第3回演奏会(杜のホールはしもと)
7月3日—松竹大歌舞伎(相模女子大学グリーンホール 大ホール)
8月3日—夏休み「子どものための音楽会」(同上)
8月6日—薪能プレ講座(相模原南市民ホール)
8月8日—物語の女たち 井伏鱒二「黒い雨」～八月六日広島にて、矢須子(相模女子大学グリーンホール 多目的ホール)
8月15日—第26回相模原薪能(相模女子大学グラウンド・特設舞台)

なかでも「相模原薪能」は、1986年、50万人都市記念事業のひとつとして開催され、1988年の第2回からは夏の行事として行われるようになり、相模原の夏の風物詩として市民に定着している。

【業務内容】

1日目—オリエンテーション、アンケート集計
2日目—グリーンホール内施設案内、アンケート集計、情報誌「Move」のチェック
3日目—相模原市役所でのロビーコンサートにて、会場設営及び写真撮影
4日目—「チェンバーオーケストラ相模原 第3回演奏会」当日 チラシ挟み込み、客席案内
5・6日目—アンケート集計、他公演のポスター作成
7日目—「松竹大歌舞伎」公演当日 表まわり業務(案内配布、プログラム販売)
8～11日目—アンケート集計、発送物の準備、他公演の案内チラシの作成
12日目—夏休み「子どものための音楽会」公演当日
13日目—薪能プレ講座 会場設営、配布物の準備、客席案内
14日目—「物語の女たち 井伏鱒二『黒い雨』」公演当日 会場準備、開場中の客席案内
15日目—「薪能」仕込み、当日の配布物の準備、楽屋設営
16日目—「第26回相模原薪能」当日
17日目—アンケート集計、実習のまとめ

【実習生の声】

- ・実習期間中、数多くの自主事業に関わることができ、その事業がどのように成り立っていくのかを具体的に知ることができた。
- ・「相模原薪能」では、野外公演ということもあり、前日の開場準備、本番当日とともに炎天下での活動ではあったが、2000人もの観客が集まるという熱気に充実感を覚えた。この事業がいかに市民に受け入れられているか、肌で感じることができた。相模原を代表する事業に実習という形で関わらせていただくことができて大変光栄であった。
- ・日程の関係上、事務所での作業では、アンケート集計が中心となり、その他の業務に携わることが少なかったが、アンケート集計を続けていく中で、相模原市民文化財団の事業に対する市民の受け止め方や、文化芸術に対する思いを知ることができた。

*平成25年4月1日よりネーミングライツ命名権により愛称決定

劇場・音楽堂等基盤整備事業（情報提供及び研修）

「劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業」

事業の概要

趣旨・概要

地域の劇場・音楽堂等のスタッフ（アートマネジメント及び舞台技術の担当職員等）の資質向上や大学生等のインターンシップのため、他の劇場・音楽堂等での実務研修や他の劇場・音楽堂等からの指導者の招へいなど、劇場・音楽堂等における中堅人材の交流研修事業を実施します。このことにより、地域の劇場・音楽堂等の活性化を図るとともに、地域の文化芸術活動の充実を図ることを目的とします。

事業内容

- (1) 劇場・音楽堂等中堅職員実務研修派遣、交流（以下 実務研修派遣）

地域の劇場・音楽堂等において、アートマネジメント及び舞台技術を担当している中堅職員を、優れた活動を行っている他の劇場・音楽堂等に派遣し、実務研修や交流を行うことにより、スタッフの資質向上と地域の劇場・音楽堂等の活性化を図ります。

- (2) 他の劇場・音楽堂等からの指導者の招へい、交流（以下 指導者の招へい）

優れた活動を行っている劇場・音楽堂等の職員を指導者として招へいし、実務研修、交流を行うことにより、スタッフの資質向上と地域の劇場・音楽堂等の活性化を図ります。

- (3) インターンシップを導入して、大学と連携したアートマネジメント人材育成体制の構築を促進します。

事業実施期間

平成 25 年 8 月 1 日（木）～ 平成 26 年 1 月 31 日（金）

本事業に 応募できる 劇場・音楽堂等

文化の振興普及に係る活動を主たる目的とする、地域の劇場・音楽堂等
ただし、平成 25 年度文化芸術振興費補助金「劇場・音楽堂等活性化事業一活動別支援事業一」の支援決定施設は申請できません。（指導者の派遣は可）

派遣、招へいの 対象となる職員

- (1) 実務研修派遣

地域の劇場・音楽堂等において、企画、運営、舞台技術の中心的役割を担う中堅職員（原則として、常勤で実務経験が 3 年以上の者）

- (2) 指導者の招へい

地域の劇場・音楽堂等の企画、運営、舞台技術に関して優れた活動を行い、招へい先の劇場・音楽堂等において、一定期間、指導者としての任に就ける者

支援対象経費

(1) 実務研修派遣

■研修生派遣元 研修生派遣に要する経費を助成

[対象経費] 派遣研修生の旅費、宿泊費、研修生派遣に伴う代替要員雇用に係るアルバイト賃金

■研修生受入先 研修生の受け入れに要する経費を助成

[対象経費] 実技指導謝金

外部からの講師に係る旅費、謝金、教材印刷費

(2) 指導者の招へい

■指導者の招へい元 指導者の招へいに要する経費を助成

[対象経費] 往復の交通費（上限あり）、宿泊費（2分の1）、

招へい指導者に伴う代替要員雇用に係るアルバイト賃金

■指導者派遣元 指導者の派遣に要する経費

[対象経費] 実技指導謝金、教材印刷費

(3) インターンシップ

■インターン受入先 インターンの受け入れに要する経費

[対象経費] 実技指導謝金、教材印刷費

事業の流れ

申込み 本事業の支援を希望する劇場・音楽堂等の代表者は所定の申請用紙に必要事項を記入し、申込み受付期間内に全国公文協に提出します（平成25年度の受付期間は8月1日～9月30日）。

事業の決定 全国公文協が申請内容を審査し、事業を決定する。
事業計画の作成・提出：事業が決定した劇場・音楽堂等は詳細な事業計画書を作成し、全国公文協の承認を受けてから、事業を実施する。報告会の実施・評価：事業終了後には事業報告書を作成するとともに、実務研修参加者、招へいされた指導者等による事業報告会を実施することにより、事業評価を行う。

事業報告書の作成 事業終了後には事業報告書を作成します。

2014（平成26）年度については事業の内容が変わることがありますので、詳細は全国公文協ホームページなどでご確認ください。

本制度の詳細については、下記までご連絡ください。

公益社団法人 全国公立文化施設協会

〒104-0061 中央区銀座2-10-18 東京都中小企業会館4階

TEL：03-5565-3030 FAX：03-5565-3050 ホームページ：http://www.zenkoubun.jp E-mail：bunka@zenkoubun.jp

平成 25 年度
劇場・音楽堂等基盤整備事業（情報提供及び研修）

劇場・音楽堂等スタッフ交流研修事業 報告書

発行日 2014 年 3 月 25 日
編集・発行 公益社団法人 全国公立文化施設協会
〒104-0061
東京都中央区銀座 2-10-18 東京都中小企業会館 4 階
Tel. 03-5565-3030 Fax. 03-5565-3050
ホームページ <http://www.zenkoubun.jp>
E-mail bunka@zenkoubun.jp

取材・編集協力 株式会社 文化科学研究所
デザイン 三宅理子
印刷 株式会社 ケーアール